

令和8年度 小平市立小平第十二小学校 学校評価報告書									
学校教育目標 ○明るく元気でたくましい子 ◎よく考えすすんで実行する子＜重点目標＞ ○たがいになかよくする子									
目指す学校像(ビジョン)									
【目指す学校像】 こどもも、大人も、みんなの笑顔があふれる学校									
【目指す児童・生徒像】 こどもが夢を描き、心弾ませて通う学校									
【目指す教師像】 ・児童を心から慈しみ理解し、児童の良さと個性を引き出し伸ばす教職員・自らの課題を認識し、日々研鑽に努めるとともに、協働して磨き合う教職員・地域を愛し、地域や保護者と共感し、積極的に対話しながら信頼にこたえる教職員									
前年度までの学校経営上の成果と課題									
・朝学習や校内研究で国語科の学習を中心に言語活動に取り組み、基礎的・基本的な学力の定着を推進することができた。さらに思考力、表現力の向上に取り組んでいく。									
・会議の精選や教科担任制の導入により、時間を有効に使うことができた。その一方で、情報が共通理解されない事項も見られた。学年間や学級間の連絡を密にしていく。									
	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策	
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標			
学力向上	授業、朝学習、十二小タイム、学習アプリなどを活用し既習内容を常に確認したり、振り返ったりすることができるような学習を計画し、基礎的・基本的な内容についての定着を図る。	4	1	2年生以上を対象とした診断テストの結果から、平仮名や漢字、かけ算九九などの知識・技能に課題が見られた。そのため、朝学習や授業中に学習アプリや東京ベシッドリルを活用し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。また、家庭学習についても保護者に協力を依頼し、学校と家庭が連携して学習習慣の確立を目指す。さらに、資料の提示や児童同士の考えの共有など、様々な学習場面において、学年の実態や学習内容に応じた学習者用端末の活用を進め、学びの充実を図っていく。					
	校内研究では、児童の「学びの選択」の手立てに重点を置き、自ら学ぶ授業スタイルの構築を図る。また、OJTを通して教員が相互に授業を見合う場を充実させ、指導力の向上へとつなげる。	4	4	児童の「学びの選択」を支える手立てについて教員の理解を深めるため、各分科会で1学期の実践を振り返り、今後の取組について話し合いを重ねてきた。2学期以降は、OJTや授業観察とも連携しながら、実践を共有したり意見交換したりする機会を設け、教員同士の学び合いをさらに活性化していく。教員自身の学びを日々の授業改善につなげ、児童の主体的な学びの実現を目指していく。					
健全育成（いじめ防止）	児童が安全で規律ある生活ができるように、教職員・保護者・児童への「十二小スタンダード」「十二小のやくそく」の周知、徹底を図る。また、不登校児童への登校支援として「トニールーム」を今年度中に開設する。生活指導主任が、朝会等で生活規律について指導する機会を設け、学校全体で生活習慣の定着を目指す。	4	3	生活規律（給食指導を含む）について、全教職員が共通した指導を行えるよう、1学期当初に全体で指導内容を確認した。また、「十二小スタンダード」や「十二小やくそく」について、保護者会や毎月の朝の時間に確認することで、教職員だけでなく、児童や保護者への周知と意識付けを図っている。今後も、共通理解のもと丁寧な指導を継続するとともに、ルールを守ることの大切さを児童自身が考え、主体的に実践できるよう支援していく。					
	年3回のふれあい月間では、いじめ防止授業を行い、児童理解アンケートを全児童対象に実施する。また、各担任が「いじめ案件記録シート」を作成し、いじめの認知や指導内容などを日常的に記録する。実態の把握を行い、組織的に対応策を講じる。	4	3	ふれあい月間のアンケート結果や生活指導夕会での情報共有を通して、教職員全体で児童の課題を把握し、早期対応・解決に努めてきた。今年度も、各学級担任が「いじめ対応記録シート」を作成し、認知したいじめの状況や指導内容、保護者への対応等を記録している。今後も、児童の小さな変化やサインを見逃さず、学年間や生活指導主任、管理職への報告・連絡・相談を徹底し、組織的かつ迅速な対応につなげていく。					
体力向上	朝活の運動、遊びの内容を精選し、運動が苦手な児童も楽しめるものにする。縄跳び旬間やマラソン旬間など、個人の成長だけでなく、友達同士で学び合い、互いに高め合う場を設定する。	3	4	体育の学習では、友達同士で教え合ったり、学び合ったりする姿が見られた。運動会に向けた練習においても、各競技の特性を理解し、友達と協力しながら取り組む姿が多く見られた。2学期以降の縄跳び旬間やマラソン旬間では、児童が自分の課題を意識して練習に取り組むとともに、友達同士で教え合い、学び合う場を設定していく。一人一人が楽しみながら運動に親しみ、主体的に課題を解決できるよう、取組を充実させていく。					
	健康への関心を高めさせるために、栄養士による食育指導や出前授業を設定する。自身の体への関心を高め、丈夫な体をつくろうとする意識させるために、保健の授業や養護教諭による保健指導を実施する。	4	3	偏食が多く、給食を残す児童が多いという課題があったが、全学級で共通した給食指導を行うことで、少しずつ改善が見られている。また、給食時間の栄養士による教室巡回や、調理の様子を撮影した動画の視聴、グリーンピースのさやむきなどの体験的な活動を通して、児童の食への関心を高めることができた。こうした取組を通して、給食に関わる調理員や食材を育てる農家の方々への感謝の気持ちも育まれている。					
業務改善・働き方	学級担任の教材研究や児童理解に充てる時間を確保するため、特別時程の設定や教科担任制、副担任制の実施や、スクールサポートスタッフやエデュケーションアシスタントの積極的な活用を推進する。	3	3	スクールサポート・スタッフやエデュケーションアシスタントを積極的に活用するとともに、教科担任制や副担任制を実施することで、教材研究や校務分掌に取り組む時間を確保することができた。また、今年度は担任交流を実施し、副担任を含めた学年全体で児童を指導する体制づくりにも取り組んだ。今後は、1学期の取組について成果と課題を整理し、より効果的な指導体制の構築につなげていく。					
	議題の把握や紙媒体の削減、校務分掌作業に充てる時間を確保するため、会議を精選し、校務支援システム、校務用端末を積極的に活用する。フレキシブルな働き方ができるように、時差勤務の取得を推奨する。	1	2	時差勤務を学校全体で推奨することで、多くの教員が活用し、それぞれのライフスタイルや業務状況に応じた柔軟な働き方につながっている。また、会議の精選や特別時程の設定により、放課後の時間を有効に活用することができた。一方で、運営委員会の在り方や校務支援システムの受信メールの確認・処理に多くの時間を要するなど、業務改善に向けた課題も明らかになった。2学期以降は、各会議の目的や内容、運営方法を見直し、より効率的な学校運営につなげていく。					
コミュニケーション	各プロジェクトチームで課題を把握し、より専門的に解決を図っていく。保護者・地域ボランティアの活用を通して、教育活動をより充実したものにしていく。	1	4	体力テストや花のミニボランティアなど、毎年実施している活動において、多くの保護者・地域の方にボランティアとして参加していただいた。今後は、こうした活動に加え、日常的教育活動にも保護者や地域の方が参画できる機会を増やし、学校・家庭・地域が一体となって児童の学びを支える取組を進めていく。2学期以降は、どのような教育活動で協力を得られるかを協議し、実践につなげていく。					
	学校ホームページやCSだよりを活用し、CSの取組を家庭・地域へ周知する。ボランティアを早めに募集し、より多くの方に参画いただけるよう促していく。	4	4	6月の土曜授業で行った熟議の会では、教職員とCSメンバーが学校の現状や課題について話し合い、共通理解を図った。今後は、熟議で出された意見や課題を、各プロジェクトチームの活動や学校運営にどのように生かしていくかが課題となる。また、学校ホームページやCSだよりを活用して活動の様子を発信し、より多くの保護者にCSの活動に関心をもってもらえるよう取り組んでいく。					